114A-50 **正答率:24.2%**  (歯周)

44 歳の男性。下顎左側臼歯部の違和感を主訴として来院した。9年前にstageⅠの舌癌の治療を受けたが、現在まで再発はない。歯周基本治療後の再評価の結果、 歯周外科治療を行うこととした。初診時の口腔内写真とエックス線画像を示す。再評価時の歯周組織検査結果の一部を表に示す。

適切な治療法はどれか。2つ選べ。

ａ 骨移植術

ｂ FGF-2 製剤の応用

ｃ 歯周ポケット搔爬術

ｄ 歯肉弁根尖側移動術

ｅ エナメルマトリックスタンパク質の応用

テーブル

自動的に生成された説明

**【歯周組織再生療法】**　『臨床歯周病学』第24章ティッシュエンジニアリング 参照

近年、歯の喪失原因として歯周疾患が主なものとなり、MIの概念や再生療法が着目されていることから、今後の国試でも多く出題されることが予想されます。

その中でFGF（塩基性線維芽細胞増殖因子）製剤が注目されていますが、

**過敏症の既往歴のある患者**と**口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者**

(細胞増殖促進作用を有するため)が禁忌であることを覚えていれば解けると思います。

この症例は目立った歯肉退縮は認められず、6番近遠心に**垂直性骨吸収**を認めることがわかれば、**歯周組織再生療法**が適応となると考えられます。



充分な付着歯肉あり。

6番近遠心に垂直性の骨吸収を認める。



114A-50 正答率:24.2% (歯周)　**解答**

44 歳の男性。下顎左側臼歯部の違和感を主訴として来院した。9年前に**stageⅠの舌癌の治療を受けた**が、現在まで再発はない。歯周基本治療後の再評価の結果、 歯周外科治療を行うこととした。初診時の口腔内写真とエックス線画像を示す。再評価時の歯周組織検査結果の一部を表に示す。

適切な治療法はどれか。**2つ選べ。**

**ａ 骨移植術**　歯周組織再生療法なので〇

~~ｂ FGF-2 製剤の応用~~ 口腔内に悪性腫瘍の既往のある患者の症例のため

FGF（塩基性線維芽細胞増殖因子）製剤は避けるべき。

~~ｃ 歯周ポケット搔爬術~~　浮腫性の浅い骨縁上ポケットが適応なため×

(この症例は深い骨縁下ポケット)

~~ｄ 歯肉弁根尖側移動術~~　付着歯肉幅の獲得などを目的としており、

本症例で付着歯肉は問題ないと思われるため×

**ｅ エナメルマトリックスタンパク質の応用**　歯周組織再生療法なので〇

**解答:a,e**

**※歯周組織再生療法には他にもGTR法などがあることを覚えておくと良いです。**